

目次

口絵

序

凡例

細目次

第一編 流通

第一章 愛知県の流通概況……………三

第二章 流通機構の近代化と商品流通……………三五

第一節 流通制度の近代化……………三五

一 名古屋通商会社の設立と解散……………三五

(1) 設立の経過と会社概要……………三五

(2) 伊藤・関戸両家と会社……………五〇

二	作良新田会所と豊橋商法会社	六〇
三	米会所と商品取引所	六二
第二節	近代化の進展と流通資本	七九
一	中央資本の進出	七九
二	貿易市場資本の展開	九四
第三節	主要商品の流通と組織	九八
一	農水産物	九八
二	繊維品	一二八
三	陶磁器・木材	一三五
四	石炭等	一四九
第三章	産業の発展と流通機構の変容	一六三
第一節	商工行政の展開と商業組織	一六三
第二節	インフラ整備と物流	一七六
一	名古屋港築港と物流の変化	一七六
二	運搬手段の変化と物流	一八五

第三節 都市化の進展と小売業	一九八
一 百貨店の展開	一九八
二 チェーンストアの開発と商店街の繁栄	二一一
第四節 主要商品取引	二二〇
一 農水産物	二二〇
二 繊維品	二五七
三 陶磁器・木材	二六八
四 石炭	三〇一
五 重工業製品	三〇九
第四章 戦時体制下の流通再編	三二三
第一節 物流機構の再編	三二三
一 物資輸送	三二三
二 運送業の企業整備	三三八
第二節 卸売・小売業の統制と整備	三三六
一 戦時商工行政	三三六

二	織維品	三五六
三	日用品・食料品	三五七
第二編 金融		
第一章 金融市場の發展と動搖		
第一節	草創期の金融市場	三九一
第二節	日露戰爭後の金融市場	三九一
第三節	慢性不況下の金融市場	四〇二
第四節	戰時体制下の金融市場	四一八
第二章 各種金融機關の形成と再編		
第一節	国立銀行	四六三
第二節	普通銀行・貯蓄銀行	四八四
一	有力地方銀行	四八四
二	中小地方銀行・貯蓄銀行	五八八

第三節	特殊銀行	六二一
第四節	郵便貯金	六一九
第五節	信託会社等	六三七
第三編 交通		
第一章	愛知県の交通概況	六五一
第二章	陸上交通の発達と輸送	六七五
第一節	鉄道網の拡充と軌道の整備	六七五
第二節	道路運送・車両輸送の発達	七六二
第三節	道路の整備	七七四
第三章	水上交通の発達と輸送	七八三
第一節	港湾の整備	七八三
第二節	海運の展開	八一四
第三節	運河の整備と渡船	八三二

第四章 通信……………八四一

第一節 草創期における通信事業……………八四一

一 駅通改革と郵便創業……………八四一

二 愛知県内電信創業と豊橋電信分局……………八五〇

第二節 近代的通信事業の形成と確立……………八五四

一 汽船による通送……………八五四

二 地域における郵便電信事業の整備……………八五六

三 電話交換局の開設と名古屋商業会議所……………八七二

第三節 郵便・電信・電話事業の展開……………八七七

一 請願電信・電話の制度化と地域……………八七七

二 通信事業の拡張と名古屋通信局の設置……………八八〇

三 戦間期から戦時期にかけての展開と変容……………八八二

解説……………八九一

あとがき

資料提供者及び協力者

愛知県史編さん関係者名簿

細目次

第一編 流通

第一章 愛知県の流通概況

1	〔松方デフレ末期愛知県内各地の商況〕(抄)	3
	一八八五年(明治十八)頃……………	
2	貨物集散の状況(抄)	25
	一九二二年(明治四十五)三月……………	
3	愛知県商工要覧(抄)	28
	一九三八年(昭和十三)二月……………	
第二章 流通機構の近代化と商品流通		
第一節 流通制度の近代化		
一 名古屋通商会社の設立と解散		
(1) 設立の経過と会社概要		
4	〔全国五ヶ所に産物会所設置〕	35
	明治四年(一八七二)四月……………	
5	〔名古屋藩通商会社設立町触〕	35
	明治四年(一八七二)四月……………	
6	〔通商会社開業町触案〕	36
	明治四年(一八七二)四月十五日……………	
7	〔通商会社名に「藩」の字使用不可の件〕	36
	明治四年(一八七二)四月……………	
8	〔藩庁宛通商会社への支援要請〕	37
	明治四年(一八七二)五月七日……………	
9	〔洋物商社上納金減額願〕	37
	明治四年(一八七二)五月……………	
10	〔宝飯郡鍋釜鑄物営業許可伺〕	38
	明治四年(一八七二)五月……………	
11	〔洋物商社上納金問題の処置〕	39
	明治四年(一八七二)五月……………	
12	〔知多郡酒造屋らの東京為替取組〕	39
	明治四年(一八七二)五月……………	
13	〔堀川番所再開への苦情申し立て〕	40
	明治四年(一八七二)五月……………	
14	〔唐物商い上納金減額願〕	40
	明治四年(一八七二)七月……………	
15	〔通商会社議事案〕	41
	明治四年(一八七二)九月……………	
16	〔志水口搗米屋要望農業兼業商整理案〕	42
	明治四年(一八七二)九月……………	
17	〔洋物口銭取立等の取扱〕	42
	明治四年(一八七二)十月……………	
18	〔封金取扱の変更願〕	44
	明治四年(一八七二)十二月……………	
19	〔通商会社設立以降の経過概要〕	44
	明治五年(一八七二)二月……………	
20	〔旧藩産物会所の事業処置伺〕	46
	明治五年(一八七二)三月……………	
21	〔通商会社解散と新結社の組成〕	47
	明治五年(一八七二)三月二十三日……………	

22	〔通商会社の経営概況〕 明治五年（一八七二）八月……………	47
23	〔名古屋通商会社解散時〕勘定取調書 一八七三年（明治六）三月……………	49
	(2) 伊藤・関戸両家と会社	
24	〔伊藤・関戸への藩庁会計懸申渡〕（抄） 明治四年（一八七二）一月二十七日……………	50
25	〔大坂富豪からの名古屋藩借入〕 明治四年（一八七二）四月十五日……………	50
26	〔伊藤・関戸兩名の通商会社総頭取就任〕 明治四年（一八七二）十月四日……………	51
27	〔通商会社総頭取六名の当番日程〕 明治四年（一八七二）十月七日……………	51
28	〔通商会社の廃業業務手順〕（抄） 明治五年（一八七二）三月……………	52
29	〔両家及び通商会社入社金〕 明治五年（一八七二）三月……………	53
30	〔旧藩調達金と通商会社貸付との関連〕 一八七三年（明治六）三月……………	53
31	〔県庁返上金問題と通商会社解散〕 一八七三年（明治六）三月二十二日……………	53
32	〔商社拝借金返納方之儀に付歎願〕 一八七三年（明治六）三月二十八日……………	54
33	〔両家より拝借金返済のため徳川家へ救済懇願〕 一八七三年（明治六）九月……………	54
34	〔元名古屋藩商社基金之儀に付何及び指令〕（抄） 一八七三年（明治六）十一月三十日……………	55
35	〔旧名古屋藩貸下金処分付大藏省へ進達〕 一八七五年（明治八）十一月十八日……………	56

36	〔通商会社解散の事後処理〕（抄） 一八八〇年（明治十三）七月二十三日……………	57
	二 作良新田会所と豊橋商法会社	
37	〔明治三年の作良商船会社開業〕 明治四年（一八七二）八月……………	60
38	豊橋県商社法則 明治四年（一八七二）八月……………	60
39	乍恐口上之覚〔豊橋産物会所と豊橋荷物扱業者との対立〕 明治四年（一八七二）十二月……………	61
	三 米会所と商品取引所	
40	〔正米会所移転伺及びその実態〕 明治四年（一八七二）八月……………	62
41	〔今尾蔵米会所開業と正米会所廃止〕 明治四年（一八七二）十二月……………	63
42	〔延米会所立会業者の相場損金処理問題〕 明治四年（一八七二）十二月……………	63
43	〔延米会所証拠金精算事務関戸から為替会社への変更〕 明治四年（一八七二）十二月二十三日……………	64
44	〔明治二年四月—四年末迄の延米会所勘定報告〕 明治五年（一八七二）五月……………	64
45	米穀并諸品売買会社延期出願ニ付上申（抄） 一八七五年（明治八）十一月二十九日……………	67
46	〔米商会社仲買税賦課法改正願及び指令〕 一八八一年（明治十四）五月二十一日……………	70
47	株式会社名古屋商品取引所設立御免許申請書（抄） 一八九四年（明治二十七）六月二十三日……………	72

第二節 近代化の進展と流通資本

一 中央資本の進出

48	〔熱田四日市間航路助成金願書〕 一八七八年(明治十二) 八月一日……………	79
49	〔名古屋貨物増加に伴う新航路開設可能性打診状〕 一八七九年(明治十二) 七月二十三日……………	79
50	〔半田港試航の景況〕 一八七九年(明治十二) 一月十七日……………	80
51	〔伊勢湾域市場調査報告〕 一八八〇年(明治十三) 八月九日……………	81
52	〔名古屋出張所開設提案 京浜―名古屋間貨物輸送量一覽〕 一八八四年(明治十七) 九月三日……………	84
53	〔知多郡醤油、有松絞、沓掛木綿等、大型材木、知多郡酒の約定指し書〕 一八八五年(明治十八) 二月十五日……………	89
54	〔瀬戸物一手積み運賃協議〕 一八八五年(明治十八) 三月二十日……………	89
55	〔日本郵船会社開業通知〕 一八八五年(明治十八) 十月一日……………	90
56	〔三井物産の名古屋進出と取引拡大〕(抄) 一八八八年(明治三十二) 一八九九年……………	91
57	二 貿易地場資本の展開 〔海外輸出貿易に従事する商人及会社組合等調〕(抄) 一八八八年(明治三十二) 八月四日……………	94
58	常滑貿易株式会社 第一回營業報告書(抄) 一八九六年(明治二十九) ……………	95

〔名古屋扇貿易組〕(抄)

一八九九年(明治三十二) 七月三日…………… 96

第三節 主要商品の流通と組織

一 農水産物

59	〔三河・信濃中馬輸送報告〕 明治四年(一八七二) 九月……………	98
60	〔東京府広岡助五郎酒代金を替の儀伺〕 一八七六年(明治九) 三月……………	98
61	〔広岡助五郎逆為替命令書〕 一八七七年(明治十) 十二月二十一日……………	100
62	〔米・茶輸送時期終了に伴う輸送景況連絡状〕 一八七八年(明治十一) 八月二十七日……………	102
63	〔知多酒取扱につき伊藤・広岡約定書〕 一八七九年(明治十二) ……………	103
64	〔知多郡役所宛鮮粕取引報告書〕 一八八〇年(明治十三) 八月二十七日……………	105
65	〔知多郡役所宛鮮粕取引報告書〕 一八八八年(明治二十一) 頃……………	105
66	馬車附記(抄) 一八九一年(明治二十四) 三月十七日……………	108
67	〔亀崎米穀肥料取引所設立ノ義ニ付陳情(抄)〕 一八九三年(明治二十六) 九月……………	109
68	〔亀崎町米穀肥料取引所設置申請ニ付上申(知多郡亀崎町米穀・肥料集散高)〕 一八九四年(明治二十七) 三月十六日……………	112
69	〔海東郡津島町米穀木綿集散調査〕 一八九三年(明治二十六) 十月十八日……………	114

71	株式会社津島米穀木綿取引所認可申請二対スル添申書 一八九四年(明治二十七日)二月二十四日……………	116
72	〔津島米穀取引所発起認可申請書〕(抄) 一八九五年(明治二十八年)一月九日……………	118
73	〔岡崎米穀取引所設立認可申請書〕(抄) 一八九四年(明治二十七年)三月十四日……………	123
二 繊維品		
74	〔大坂産物会所事業の尾西在方四会所への委任〕 明治四年(一八七二)七月……………	128
75	〔尾西地方総糸職課税異議申し立て〕 明治四年(一八七二)九月……………	128
76	〔桐生織物仕入呉服業者書上〕 明治四年(一八七二)十月……………	129
77	〔舶来品商社〕洋糸生金巾商ひ高扣帳之写 明治五年(一八七二)三月……………	129
78	〔師崎出荷木綿・「白鳥」所在地問合せなど連絡状〕 一八七八年(明治十一年)二月十七日……………	132
79	〔信友唐糸送り賃特約扱い連絡状〕 一八八四年(明治十七年)二月二十五日……………	133
80	〔一宮三八市向け信友唐糸の特別扱い連絡状〕 一八八五年(明治十八年)九月六日……………	133
81	〔鼻緒運賃の取扱い連絡状〕(抄) 一八八五年(明治十八年)一月二十日……………	134
三 陶磁器・木材		
82	〔御庭竈陶器販売権への異議申立〕(抄) 明治四年(一八七二)四月……………	135
83	〔陶器営業組合規則〕(抄) 一八八三年(明治十六年)六月……………	136

84	〔北海道開拓使用材流出事件〕(抄) 一八七八年(明治十一年)十月―十二月……………	138
85	〔横浜増田屋行巨材輸送断り記録〕 一八八五年(明治十八年)八月十六日……………	147
86	〔横浜行巨材輸送断り記録〕(抄) 一八八五年(明治十八年)九月八日……………	148
87	〔横浜行巨材輸送引受けと材木引船〕(抄) 一八八五年(明治十八年)九月二十二日……………	148
四 石炭等		
88	〔鎮台行荷物外装入倉点検指示書〕 一八八四年(明治十七年)十一月二十二日……………	149
89	〔豊橋行弾薬兵器運送手順〕 一八八五年(明治十八年)九月一日……………	150
90	〔尾張石炭会社の設立〕(抄) 一八九六年(明治二十九年)九月……………	150
91	愛知石炭商組合規約書(抄) 一八九九年(明治三十二年)三月二十七日……………	152
92	〔三菱合資会社宛東海石炭商會報告〕(抄) 一九〇〇年(明治三十三年)……………	156
93	明治三十拾九年 東海石炭商會報告諸勸定書(抄) 一九〇六年(明治三十九年)九月―十月……………	160
第三章 産業の発展と流通機構の変容		
第一節 商工行政の展開と商業組織		
94	〔名古屋市商工行政沿革〕(抄) 一九三一年(昭和六年)……………	163

95 〔町村の中小商業問題と商工会〕(抄) 164

一九三四年(昭和九)十二月

96 名古屋勸業協会の変遷(抄) 173

一九四四年(昭和十九)

第二節 インフラ整備と物流

一 名古屋港築港と物流の変化

97 名古屋開港後二ケ年目に於ける貿易の状況(抄) 176

一九一〇年(明治四十三)六月

98 〔第一次世界大戦開戦前後の名古屋市倉庫の拡勢〕(抄) 177

一九一七年(大正六)六月

地方別より観察したる為替取組事情(抄)

一九二二年(大正十一)

100 〔名古屋港輪移出入三井物産名古屋支店報告〕(抄) 182

一九二六年(大正十五)六月

〔商工省貿易課出張所設置の陳情〕

一九二七年(昭和二)三月十七日

二 運搬手段の変化と物流

102 中部鉄道管理局 駅勢調査梗概(貨物之部)(抄) 185

一九一一年(明治四十四)十月十七日

〔都市化と冷蔵保管業〕(抄)

一九一五年(大正四)三月

104 市内運送に就いて(抄) 192

一九二四年(大正十三)二月

第三節 都市化の進展と小売業

一 百貨店の展開

105 〔いとう呉服店の通信販売方法について〕 198

一九一五年(大正四)七月十日

106 年末年始進物品値段表 199

一九一七年(大正六)十二月十四日

〔松坂屋の資本金増額株主名簿・新定款〕(抄)

一九一七年(大正六)二月十五日

二 チェーンストアの開発と商店街の繁栄

108 〔シキシマパンのチェーンストア〕(抄) 211

一九二五年(大正十四)七月

〔名古屋商業学校の公私設市場調査〕(抄)

一九三七年(昭和十二)三月

110 〔名古屋市食品小売市場協会と名古屋市場振興株式会社〕(抄) 213

一九三八年(昭和十三)

111 岡崎に盛り場鼎立 218

一九三八年(昭和十三)一月

第四節 主要商品取引

一 農水産物

112 有限責任佐布里信用購買販売組合 220

一九一一年(明治四十四)四月

113 碧海郡組合連合会の米穀共同販売成績 221

一九一六年(大正五)五月

114 名古屋専売支局吉田出張所沿革史(抄) 224

一九一八年(大正七)

115 有限責任碧海郡購買販売組合連合会(抄) 232

一九三〇年(昭和五)二月

116	愛知県の小麦販売統制に就て	243
117	愛知県米の販売統制 (抄)	247
118	名古屋地方と朝鮮米 (抄)	250
119	二 繊維品	
119	〔津島町伊藤長七の木綿織物販売〕 (抄)	257
120	〔韓国元山の顧客への綿糸布営業案内〕	260
121	〔尾西地方における〕輸出織物の沿革	261
122	〔大正九年綿糸相場大暴落信友商店解合承認証〕	265
	三 陶磁器・木材	
123	名古屋陶磁器貿易商 (工) 同業組合設置発起認可ノ件	268
124	〔名古屋陶磁器貿易商工同業組合業務成績報告〕 (抄)	272
125	〔名古屋附近の陶磁器輸送〕 (抄)	273
126	蘭領東印度向陶磁器積止声明書	279
127	組合加入の契 (抄)	282
128	名古屋材木商同業組合発起認可申請書	289

129	大正六年十月 木材二関スル調査報告 (抄)	293
	一九一七年 (大正六) 十月	
	四 石炭	

130	〔三井物産〕三同無煙炭株式会社設立並ニ投資申請ノ事	301
131	〔三井物産名古屋支店報告 石炭支部〕 (抄)	303
132	〔名古屋管内三井物産石炭移輸入取扱高比較推移〕	306
133	〔三菱商事名古屋支店石炭販売〕	307
	五 重工業製品	

134	〔時計製品の流通〕 (抄)	309
135	名古屋のモーター界	314
136	〔三菱商事機械部〕工作機械課所管事務概要 (抄)	317

137	〔日中戦争による名古屋の陸海運への影響〕 (抄)	323
	一九三九年 (昭和十四) 三月	
	一 物資輸送	

137	第一節 物流機構の再編	
	第四章 戦時体制下の流通再編	

137	〔日中戦争による名古屋の陸海運への影響〕 (抄)	323
	一九三九年 (昭和十四) 三月	
	一 物資輸送	

137	第一節 物流機構の再編	
	第四章 戦時体制下の流通再編	

137	〔日中戦争による名古屋の陸海運への影響〕 (抄)	323
	一九三九年 (昭和十四) 三月	
	一 物資輸送	

138	〔日中戦争による名古屋港の輸送系統の変化〕(抄)	324
139	港湾施設概要(抄)	325
	一九四一年(昭和十六)……………	
	二 運送業の企業整備	
140	経歴書〔尾張自動車株式会社〕(抄)	328
	一九四一年(昭和十六)十月……………	
141	笹島タクシー統制株式会社臨時株主総会議事録	329
	一九四一年(昭和十六)十月三日……………	
142	〔資産引受タクシーの検収〕	331
	一九四二年(昭和十七)七月……………	
143	愛知機帆船運送株式会社ニ対スル貸出ニ付イテ(抄)	332
	一九四三年(昭和十八)十二月一日……………	
	第二節 卸売・小売業の統制と整備	
	一 戦時商工行政	
144	名古屋市内に於ける商店法施行後一ケ年間の影響(抄)	336
	一九四〇年(昭和十五)……………	
145	〔豊橋市内の企業合同〕(抄)	338
	一九四〇年(昭和十五)十月三十一日……………	
146	石炭配給二関シ陳情ノ件	340
	一九四一年(昭和十六)八月十四日……………	
147	〔小売商人の軍需工場への転業〕(抄)	341
	一九四一年(昭和十六)九月十五日……………	
148	小売業の整備と資産評価〔第十一回企業整備評価委員会〕(抄)	343
	一九四四年(昭和十九)十一月二十二日……………	

149	二 繊維品	346
	〔毛織物機業合同と原糸問屋〕(抄)	
	一九四一年(昭和十六)一月……………	
150	〔繊維製品小売業者の整備と資産評価〕(抄)	347
	一九四三年(昭和十八)九月……………	
151	愛知県繭売買業者営業用資産引受及貸付並ニ処分(抄)	351
	一九四三年(昭和十八)十一月二十六日……………	
152	〔第二次繊維製品小売業者整備〕	354
	一九四四年(昭和十九)十一月……………	
	三 日用品・食料品	
153	〔日中戦争期の名古屋の中小小売商問題〕(抄)	357
	一九三九年(昭和十四)十二月……………	
154	〔愛知県菓子卸商業組合〕昭和十七年五月第二回事業報告(抄)	368
	一九四二年(昭和十七)五月……………	
155	陶磁器貿易業整備統合ノ結果報告ノ件	375
	一九四二年(昭和十七)十一月十九日……………	
156	〔戦時期の卸売市場〕(抄)	378
	一九四三年(昭和十八)……………	
157	〔名古屋市の統制会社〕(抄)	378
	一九四四年(昭和十九)三月……………	
158	生活用陶磁器卸売業者ノ整備二関スル件	379
	一九四四年(昭和十九)三月二十五日……………	
159	菓子卸売業の企業整備	382
	一九四四年(昭和十九)八月二日……………	
160	〔名古屋自転車小売商業組合〕(抄)	384
	一九四三年(昭和十八)八月……………	

第二編 金融

第一章 金融市場の發展と動搖

第一節 草創期の金融市場

161	〔名古屋為替会社 「為替会社規則」〕 明治五年（一八七二）……………	391
162	〔名古屋為替会社 「為替会社勤仕法」〕 明治五年（一八七二）……………	393
163	〔伊藤家金銭并に両替預り金貸付業許可申請書〕 明治五年（一八七二）五月九日……………	394
164	〔加藤嘉庸から鬼頭幸七宛書状〕小野組閉店ニ付至極 好機會 一八七四年（明治七）十二月九日……………	394
165	〔加藤嘉庸から伊藤次郎左衛門・辻理兵衛・鬼頭幸七 宛書状〕愛知県為替御用之一件 一八七五年（明治八）三月四日……………	395
166	〔第三百三十四・百三十六銀行より為換方願の件〕（抄） 一八七九年（明治十二）八月二十九日……………	396
167	名古屋株式取引所設立發起認可願（抄） 一八九三年（明治二十六）……………	400
第二節 日露戦争後の金融市場		
168	名古屋経済界ノ最近趨勢（抄） 一九一一年（明治四十四）十月八日……………	402
169	金融市場…名古屋の金融（大正三年七月）（抄） 一九一四年（大正三）八月……………	407

170	株式市況並資金融通問題ニ就テ報告（抄） 一九一六年（大正五）十二月二十二日……………	415
-----	---	-----

171	十月中旬金融狀況其他ニ関シ報告（抄） 一九一九年（大正八）十月……………	415
-----	---	-----

第三節 慢性不況下の金融市場

172	名古屋銀行集会所組合銀行預金利率協定規約（抄） 一九二五年（大正十四）一月……………	418
173	三―五月中金融狀況報告（抄） 一九二七年（昭和二）三月―五月……………	424
174	〔愛知県内各行情況報告（取付）〕（抄） 一九三二年（昭和七）三月……………	429
175	〔昭和七年三月中旬金融狀況報告〕（抄） 一九三二年（昭和七）三月……………	441
176	名古屋株式取引所ノ現状（抄） 一九三五年（昭和十）七月……………	443

第四節 戦時体制下の金融市場

177	昭和十二年七月金融狀況報告 一九三七年（昭和十二）七月……………	457
178	〔貯蓄強調週間開始当初に於ける当地狀況に關シ報告〕 （抄） 一九三九年（昭和十四）六月……………	458
179	昭和十五年十二月上旬金融狀況（抄） 一九四〇年（昭和十五）十二月……………	460

第二章 各種金融機関の形成と再編

第一節 国立銀行

180 第二回半季實際考課状
一八七八年(明治十一).....463

181 第三百三十六国立銀行実況概略書
一八八二年(明治十五)十二月.....474

182 〔第三百三十四国立銀行と第八国立銀行との合併勘定説明書〕
一八八六年(明治十九).....475

183 第四十六国立銀行検査報告書大藏大臣へ進達之件(抄)
一八九三年(明治二十六)一月―四月.....479

第二節 普通銀行・貯蓄銀行

一 有力地方銀行

184 取締局日誌(抄)
一八九一年(明治二十四).....484

185 〔明治銀行預金取付の状況〕
一九〇四年(明治三十七)六月.....505

186 〔明治銀行の預金引出に関する報告〕
一九〇八年(明治四十二)三月二十三日.....506

187 伊藤銀行略史草稿(抄)
一九〇九年(明治四十二)四月.....507

188 〔伊藤銀行・伊藤貯蓄銀行 明治三十年 毎月損益計算書〕(抄)
一八九七年(明治三十).....548

189 〔伊藤銀行・伊藤貯蓄銀行 明治四十五年 毎月損益計算書〕(抄)
一九二二年(明治四十五).....555

190 〔預金取付に際し明治銀行へ救済資金貸出の件〕
一九一四年(大正三).....564

191 〔愛知銀行に対する特別融通の件〕(抄)
一九三二年(昭和七)五月.....566

192 〔名古屋銀行に対する特別融通の件〕(抄)
一九三二年(昭和七)五月.....568

193 〔明治銀行に対する特別融通の件〕(抄)
一九三二年(昭和七)一月―五月.....569

194 〔伊藤、愛知、名古屋銀行の合併に関する件〕
一九四〇年(昭和十五)十一月十八日.....580

195 〔東海銀行の設立に関する件〕
一九四〇年(昭和十五)十二月十五日.....584

二 中小地方銀行・貯蓄銀行

196 小栗銀行臨時休業ニツキ当地ノ状況
一九〇七年(明治四十).....588

197 〔額田銀行に対する特別融通の件〕(抄)
一九二七年(昭和二)六月.....589

198 愛知農商銀行ノ窮状ニ就イテ
一九三一年(昭和六)三月―七月.....590

199 〔愛知農商銀行に対する銀行団の資金融通の件〕
一九三一年(昭和六)十一月―十二月.....595

200 〔愛知農商銀行の休業〕(抄)
一九三二年(昭和六)十二月.....598

201 〔岡崎銀行に対する特別融通の件〕(抄)
一九三二年(昭和七).....602

202 〔村瀬銀行に対する特別融通の件〕(抄)
一九三二年(昭和七)一月―二月.....606

203 〔日本貯蓄銀行に対する特別融通の件〕(抄)
一九三二年(昭和七)三月.....609

第三節 特殊銀行

204	尾三農工銀行貸付ノ件 一八九八年(明治三十一) 三月—四月……………	611
205	〔日本銀行名古屋支店取引調書の件〕 一九〇六年(明治三十九) 十二月……………	612
206	〔日本銀行取引銀行先への予算外貸出に關する件〕 一九〇七年(明治四十) 六月……………	615
207	〔明治銀行休業に伴う大取付への対応のため特別融通を為したる件〕 一九三二年(昭和七) 三月……………	616

第四節 郵便貯金

208	横浜郵便電信局ニ於イテ貯蓄美談ナル冊子編製取調方 (抄)……………	619
209	郵便貯金奨励ノ方法並ニ其進行ノ状況等通報方 一九〇三年(明治三十六) 九月……………	627
210	〔銀行又は信用組合等の破綻に伴う郵便貯金への影響〕 一九二七年(昭和二) 三、四、七月……………	630
211	市の郵便貯金を比較す(抄) 一九三四年(昭和九) 八月……………	631

第五節 信託会社等

212	〔信託会社調査の件〕(抄)……………	637
213	〔銀行類似会社取締に關する件〕(抄) 一九二二年(明治四十五)……………	643

第三編 交通

第一章 愛知県の交通概況

214	〔交通運輸〕 一九二二年(明治四十五) 三月三十一日……………	651
215	交通運輸の今昔觀(抄) 一九二九年(昭和四) 十一月……………	656
216	〔貨物自動車運輸の地方別概況〕(抄) 一九三〇年(昭和五) 一月……………	666

第二章 陸上交通の發達と輸送

第一節 鐵道網の拡充と軌道の整備

217	〔大府浜松間開業以來の運輸景況〕 一八八八年(明治二十一) 十月七日……………	675
218	武豐線移転工事落成ニ付支線運輸方法及費用ノ件 一八九二年(明治二十五) 五月十二日……………	676
219	中央鐵道線敷設ニ關スル件ニ付請願 一八九三年(明治二十六) 二月十五日……………	677
220	〔関西鐵道会社名古屋間延長目論見書〕 一八九三年(明治二十六) 二月十八日 — 六月十五日……………	679
221	〔豊川鐵道株式会社發起並鐵道新設の件〕(抄) 一八九三年(明治二十六) 六月……………	680
222	尾西鐵道会社仮免狀下付ノ件(抄) 一八九四年(明治二十七) 二月二十六日……………	682
223	私設鐵道株式会社發起認可及鐵道敷設願(抄) 一八九四年(明治二十七) 六月九日……………	683

224	瀬戸自動鉄道敷設願の件 一九〇一年(明治三十四) 四月十七日……………	685
225	知多電車軌道株式会社起業計画書 一九〇六年(明治三十九) ……………	686
226	愛知馬車鉄道工事竣功期限延期ノ件(路線変更と電車 への転換)(抄) 一九〇八年(明治四十二) 十二月二十四日……………	688
227	(西三軌道布設特許の件)(抄) 一九〇九年(明治四十二) 九月二十七日……………	690
228	(輕便鉄道敷設免許の件)(抄) 一九一〇年(明治四十三) 十一月三十日……………	692
229	熱田電気軌道單線運轉開始ノ件 一九一二年(大正元) 十一月二十九日……………	694
230	鳳来寺鉄道敷設免許ノ件(抄) 一九二〇年(大正九) 五月十七日……………	695
231	名古屋ヨリ震災地方方面行小荷物發送状況 一九二三年(大正十二) 十一月二十一日……………	696
232	稲沢操車場新設工事概要(抄) 一九二四年(大正十三) 二月二十八日……………	699
233	(三信鉄道敷設免許の件) 一九二七年(昭和二) 二月十八日……………	701
234	(豊橋電軌株式会社軌道敷設特許の件)(抄) 一九二六年(大正十五) 三月十六日……………	708
235	渥美電鉄黒川原福江間工事竣功期限延期ノ件 一九二七年(昭和二) 四月十二日……………	720
236	(伊勢電気鉄道大山田村南平野町間鉄道敷設免許の件) 一九二八年(昭和三) 十一月二日……………	722
237	名古屋市に於ける水陸兩運貨物の移動に就て 一九三二年(昭和七) 一月……………	723

238	名岐鉄道、愛知電気鉄道会社合併ノ件(抄) 一九三五年(昭和十) 三月十一日……………	737
239	東西連絡線収支予想ニ就テ(抄) 一九三八年(昭和十三) ……………	741
240	鉄道防空取扱細則 一九四一年(昭和十六) 九月三十日……………	744
241	交通道徳涵養運動要項(抄) 一九四二年(昭和十七) ……………	752
242	名鉄康生駅汽車電車通学自治会 一九四二年(昭和十七) ……………	754
243	旅客輸送ノ調整拡充方要望ノ件 一九四二年(昭和十七) 六月三十日……………	756
244	通勤者交通自治会規約(抄) 一九四三年(昭和十八) ……………	756
245	豊川外三線買収事務ニ関スル局対管理部、工機部打合 会記録(抄) 一九四三年(昭和十八) 七月六―七日……………	758
246	空襲状態報告(康生町駅)(抄) 一九四五年(昭和二十) ……………	761
第二節 道路運送・車両輸送の發達		
247	本県荷車取締規則に関する建議書摘要 一八九九年(明治三十二) 五月五日……………	762
248	貸自動車営業出願ノ件 一九二八年(昭和三) 六月十四日……………	766
249	岡崎、多治見、高蔵寺間鉄道省乗合自動車試乗ニ付復 命 一九三〇年(昭和五) 九月一日……………	766
250	名古屋―敦賀間のトラック運輸 一九三三年(昭和八) 九月……………	769

251	名古屋飯田間省営バス二関スル陳情書 一九三五年(昭和十)六月二十六日……………	769
-----	--	-----

第三節 道路の整備

252	道路修築之建言 一八七五年(明治八)六月十三日……………	774
253	愛知県下三河国渥美郡内道路変換(抄) 一八七八年(明治十一)六月二十四日……………	775
254	馬車止願 一八八四年(明治十七)二月十二日……………	776
255	牛馬車留願(抄) 一八八四年(明治十七)五月十五日……………	777
256	道路取締令に関する件 一九二六年(大正十五)三月二十二日……………	778
257	道路橋梁ニ関スル工事施行ノ件 一九三八年(昭和十三)三月十七日……………	779
258	東海道改良舗装促進ニ関シ陳情ノ件 一九三九年(昭和十四)十一月十六日……………	780
259	名古屋大阪間高速自動車道路建設ニ関シ陳情ノ件 一九四一年(昭和十六)八月二十七日……………	781

第三章 水上交通の発達と輸送

第一節 港湾の整備

260	熱田築港・倉船会社設立の建議(抄) 一八八四年(明治十七)四月十八日……………	783
-----	--	-----

261	熱田築港中止意見 一八九六年(明治二十九)……………	785
-----	-------------------------------	-----

262	熱田港水陸連絡調査の件 一九〇三年(明治三十六)五月十二日……………	792
-----	---------------------------------------	-----

263	名古屋港ニ自由港設置ノ建議ノ件(抄) 一九二六年(大正十五)一月二十一日……………	797
-----	--	-----

264	武豊港修築計画案概要(抄) 一九三五年(昭和十)四月……………	798
-----	------------------------------------	-----

265	愛知県生産増強委員会港湾部会小委員会開催状況ニ関スル件 一九四三年(昭和十八)四月二十七日……………	806
-----	---	-----

第二節 海運の展開

266	廻船業律 明治四年(一八七)十二月……………	814
-----	---------------------------	-----

267	〔四日市熱田間快鷹丸試航時刻・運賃連絡書簡〕 一八七八年(明治十一)二月二十二日……………	815
-----	--	-----

268	〔四日市熱田間通航汽船運賃表〕 一八七八年(明治十二)八月二十四日……………	816
-----	---	-----

269	尾州半田村へ汽船寄航願ノ義ニ付上申 一八七八年(明治十二)四月四日……………	816
-----	---	-----

270	〔名古屋貨物集荷見込み増加に伴う新航路開設の可能性打診状〕(抄) 一八七九年(明治十二)七月二十三日……………	817
-----	--	-----

271	〔四日市・熱田間運航日程表〕 一八八〇年(明治十三)七月三十日……………	818
-----	---	-----

272	尾勢海小汽船業団結之義ニ付御依頼書 一八八三年(明治十六)五月二十七日……………	819
-----	---	-----

273	尾勢海小汽船会社設立御願書 一八八三年(明治十六)……………	821
-----	-----------------------------------	-----

274 〔日本共立汽船〕明治二十六年下半年 第十回實際報告(抄) 一八九三年(明治二十六)……………822

275 〔日本共立汽船〕明治二十七年上半年 第拾壹回事業報告(抄) 一八九四年(明治二十七)……………825

276 〔内海帆走船〕報告書 一八九四年(明治二十七)二月二十六日……………827

277 野間商船株式会社第五回事業報告 一八九四年(明治二十七)四月六日……………828

278 愛船株式会社定款(抄) 一八九六年(明治二十九)四月一日……………830

第三節 運河の整備と渡船

279 渡船場願 一八八二年(明治十五)……………832

280 運河開鑿に関する建議 一八九六年(明治二十九)……………833

281 中川運河の利用現況と将来 一九三五年(昭和十)十一月……………835

第四章 通信

第一節 草創期における通信事業

一 郵便改革と郵便創業

282 〔駅通属吏配置換案〕 明治三年(一八七〇)四月……………841

283 〔脚夫賃金の取り決めと中山道・美濃路郵便差立時刻の定め〕(抄) 明治四年(一八七二)……………842

284 〔陸運会社設立につき取調命令〕 明治五年(一八七二)七月……………847

285 〔伝馬所、助郷廃止につき陸運会社開業一件〕(抄) 明治五年(一八七二)八月……………848

二 愛知県内電信創業と豊橋電信分局

286 〔当県下電信分局御開〕 明治五年(一八七二)九月……………850

287 〔豊橋電信局地買上げ〕(抄) 一八七三年(明治六)……………851

288 〔電信局敷地之儀に付伺〕 一八七七年(明治十)十月十日……………852

第二節 近代的通信事業の形成と確立

一 汽船による通送

289 〔熱田四日市間郵便輸送条件書〕 一八七六年(明治九)十二月二十五日……………854

290 〔郵便輸送開始連絡電報〕 一八七八年(明治十二)三月十四日……………855

291 〔郵便空行李返送指二示〕 一八七八年(明治十二)四月二十八日……………855

二 地域における郵便電信事業の整備

292 〔郵便為替御用留〕(抄) 一八八一年(明治十四)……………856

293 〔今般特別郵便御施行に付〕(抄) 一八八一年(明治十四)三月十二日……………859

294 〔十六年度地方約束郵便稅御達〕(抄) 一八八三年(明治十六)六月二十六日……………860

295 郵便手録(抄) 一八八四年(明治十七)……………861

296 〔尾張国起郵便局市内集配線路図〕(抄) 一九〇〇年(明治三十三)三月十二日……………865

297 〔市外一回集配地二回集配地編入へ請願書〕(抄) 一九〇二年(明治三十五)二月六日……………867

298 〔渥美郡福江村島村電信局設置願〕(抄) 一八九七年(明治三十)一月二十日……………870

三 電話交換局の開設と名古屋商業會議所

299 〔電話交換局開設上調査之件〕(抄) 一八九六年(明治二十九)三月二十四日……………872

300 〔電話交換局開設上調査したる件〕(抄) 一八九七年(明治三十)六月十四日……………872

301 〔電話交換局開始に付開申〕(抄) 一八九七年(明治三十)六月二十四日……………873

302 〔電話交換加入申込之義に付〕 一八九八年(明治三十二)一月四日……………875

第三節 郵便・電信・電話事業の展開

一 請願電信・電話の制度化と地域

303 津島町ニ電話所御設置請願書 一九〇七年(明治四十)三月四日……………877

304 〔幡豆郡平坂村電報配達事務の一件〕(抄) 一九〇七年(明治四十)四月二十六日……………877

二 通信事業の拡張と名古屋通信局の設置

305 名古屋に於ける電話の過去と現在(抄) 一九一九年(大正八)……………880

306 名古屋通信局新設(抄) 一九一九年(大正八)……………881

三 戦間期から戦時期にかけての展開と変容

307 名古屋市と我が対欧無線電信局(抄) 一九二九年(昭和四)三月……………882

308 名古屋市の行政区画と郵便業務(抄) 一九三二年(昭和七)……………885

309 聖戦下電話を語る(抄) 一九三九年(昭和十四)一月……………887